繪入

一体もなし

五

1742

へ 13
1742
巻 5

一休ものがたり　下　目録

一　一休和尚の祈願と称して作りたる事

二　思案の為に作りとする

三　一休奥と称する付達磨の由来

四　一休の山賊と山賊の話と作りまする

五　同慈恵大師と山賊の話と作りまする

付東坡居士の話

一休ものがたり　下

一　一休和尚の活作りたる世に風雅

しけるに作りたいとの人々の問一休居

給りそれば作りたる者とのたひ作ることにさ

しかたひ座の杖の杖小法師に成けられ法をご

をそれしめ申ぶるに成ると成りくと

と活りそれば若人それ成り小社へ入ると生成け

可ぶざいのうべしやとぶねさしるるものの

小一休宗十郎。一条の辻小社とをられしも

法の師匠とでたるり天服通と活らごと

小さとそれば別座せしとこへ別ざせた

通力自在とはいふべき。
こゝにいとをかしき人にとりて、
かくせつにはなつ。上の文にいふ
ところの、ひとくさはとはられし
ものやわらんと云人もあるべし。
ものとてもとこびらにたゝ三人つまさきに一体の仏座
はまりたれば、のおのくちごとにいふまゝにおも
ゆるして見をあらひとやう。一体出あひ給へく。
こびらちんとこゝに出くやうなるは。見いたはりくるる
色しるしなりとのたまひをよ。扇のよへわりて仏

らんわれとやうなれば、やとはるる迹ぞとあるべしとも扇の
こゝにものらんとこゝに出れば、あるいは天人のふ
ところにんなるべきものゝ、ふとらんとこゝにいらるゝとし
ふりまぶとらんぶきくに出あれどらんとこゝに対らて
刀をぬんとはられれば、若人わきれくはりるを中
の二人やるるはいたくもの一体ありの人の絵りかい
らんをくに天服通とはるふとしわし。
かくいもしめこめりるるるとくはりたる
(二)一体和尚へあり対見れ来りくるるはは仏るへか
入仕れどのへくやしいい語をくこのいをくもねけりるること
をくれのごとるる成わるぶごりの絵を遠来とりてい

るゝ物ゝ也。一そくはぶしよりはじめ夏しもの
ゝ也。さしぶ巻しられしもろ〳〵れい巻もとしいるゝ
事〳〵く物ゝ〳〵ゝ也。ぶや物ゝ也ぬ物ゝ〳〵ゝ
てんのゆゝねゝわゝぶ巻ゝられしよ巻くいとく物ゝ
さして色あゝ。一休おゝ〳〵ゝ〳〵ゝねゝかしておゝし
〳〵れぶゝ〳〵ゝの巻ゝに色物ゝ。一休いづく〳〵物ゝと意
〳〵物ゝの巻ゝにゝんわゝぶゝ也と物ゝられしゝふゝら物の
巻物友〳〵物ゝ巻ゝと巻。一そくしゝんく巻ゝいぶゝ
もゝかてんの巻〳〵ねゝゝそゝ巻ゝ巻ゝいぶゝ
乃松ゝ巻物ゝけていゝ。物のゝとゝ文ゝかてん巻ゝ
大ゝく物ゝの巻ゝ〳〵ゝ巻ゝ〳〵ゝ物ゝ〳〵ゝ。

しゝゝゝれいぶゝやゝく〳〵ゝ物ゝ〳〵ゝ社今時ゝゝゝとゝゝれとの
物ゝ〳〵ゝぶゝゝゝゝれゝゝゝ巻ゝ巻ゝれゝとゝ
巻ゝれゝゝゝれゝゝ巻ゝ巻ゝゝゝゝれゝゝゝ
物ゝ巻ゝ巻物ゝれゝゝ巻ゝれゝ巻ゝ巻ゝ巻ゝ
物ゝ〳〵ゝれゝゝ巻ゝ巻ゝれゝ巻ゝ巻ゝ巻ゝ
一休物ゝゝゝゝ巻ゝ巻ゝ物ゝゝゝゝゝ巻ゝ
ゝ巻ゝ巻ゝ巻ゝ巻ゝ巻ゝ巻ゝ巻ゝ巻ゝ巻ゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
物ゝれゝれゝれゝれゝれゝれゝれゝれゝれゝ
くゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝんゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

めーるのへびがりれおどろき。板ハ一休板とゆられ
ゝ。ゝいとゆりゝれば自分自身とゝゝゝゝ。ゝ時よ
こゝ。ゝゝゝゝ

ひとはらくらひまひーぞとぞわらくーー絵かれ。
るれ一ちゐのうちとかれるる
いかーーあれかーーこれ祖師いたびと泊ー
まれいわかーーぐく奥紙はらくふ
とわそびーくうの僧きまふさ付ざわーねふりよ
くゆれるっ。ふくーうれ。紙とき書るる
絵やかんーるるかるの書ぶりやしかんーけっぶ中
ゆとき僧わざるーひくーぶ古の祖師の板とはるり
あらく書りーーくく半僧のるるるりくくを奥
とはりまりんる。稿のまるもるるるのしとい
ひーーぐひるる。板半僧い祖師ゆ和尚のたびはるり

く西りりーはん稿とるるーーるるぶ半くゆーびるる
ゆりーるるれるるーびぶ一体ーるるーるるるるるる
りーど板く半僧のりるるるるるくぶ板ゆのたひ紙
吟ーん稿ゆそん書りまりーーそれいるるるふもよう
どきむるるふるーるーびるるふおわくきるるるるー
きーるる悟乃とせばーー外のひーたし悟乃るる僧
かーーく。ゆもぬけ。ゆるーーーぶーーりくぶるる
るくく悟乃せまーーるや。世るいる半ゆるるるる稿。
祖達磨大師の古とる。るるるるるるるるるるるるの
まりまひく。ゆるかくゆくるる僧とるるーーーーの
みふんをるひはるんるくるるるるるるるるるるるる

たかうちまろんやとゆまひーに出えこ人いけ登ふ海
さうたうろ又わしとのまひうるに達磨大師いセ
家ーまくぺ一の乙星ようるりうれたぺ世爽そ爽
ふわうに新光の珠くそぺ又うさ爽るれとくの珠
とうぐうちまひうれぺるんぐやおうさぺ海いうけふ
さ分うくぺうぐさうろ人ひぺくぺ海れ和と達磨
と付ーれうぺちーわい美拡女屋しゃをーちうや。
達磨とは美のようふ達ー通じくぺみぐうさをうた
うろ人うわとのんうろやぐうれば橋ろいを見ろはよ
海亀うぐぐとぺよとれぺの乱信紙うろひうぐぺ乱信
と永中ままこをつけられ和面ーくゃーされうるう

かう戸にまうせくやうにまれらぬ口あていつたんを
さしるれりのふいよきを傾いえ正帳をのえびまつり
ぢんまとまりうふう一休ふうこくゆくいねうらを傾
やうこくいおのくいうぐわりめんぞやそれ極ふ
いふんぢんいうりぢいうで帳をのんがちうぐき帳をよの
ふうにいまりぐうしとわざうひやされれぞ
ねのくとむうり帳をのうれんんのちうこきお
うり帳をふるうでいうれーくちまんや一ふう
帳をふうりくぢうんじうぢうぢいれうひうれば
一休をこうとさいぐぢうくくあいおううのとの
ふいおうふ。釈尊い帳をふるう祢た帳をのんおとく

まうりうらとのおへばおくうれいひうりとやうれけ
きいぢうをへくうおのくぢ一休ふおうり
なくいい一休ぐ帳をのんとまうりうんおとえまうおう
ぬまうとく。矣うへぐ名家さくいまぐあげられうう
四一休和尚うあき山へのかりおのくぢ方のうとふ
ぐめさてもかーうりうう風糸りれとなぐ
めくおうーうれいうあきひぐつきたうえ一休とき
ていうふうへそとたづうれいやんうるれたぐ
んんーくおうぐ山山うぐめくー見おうくいぐおう
風糸ぐおりうくおれいぢ。あれのおうぢ舞ぐ道
ぢうまうんうねくぢいくうとうておうとのく

まへびつまた一体とは中くらひとうばいかつし
やうそをは海ことにめてのうさのそさぞちの
嘯をんうぐさむしうやまき角いかこでぐそめぐそ
さむげなるうりくぐらのくもとぐぐ山の名の。
かくさうのそうをうくくかそうびいとわぶす
ぐぐぐにりしひけう一体かこりつくそうくれも。
いんをそくくさねかうく一首仕りく紙紙仕りく
しのうへ仕りと一首ち朱くくやさそもしやくとゑろよ
矣てやし紙紙とうをくしけ山くれば一体亀紙ぬりち
東坂居士う紙山ちるの紙紙山ちるり紙紙しくくし紙
ぬくめく出されく　真山新の紙ぬくくやくい

七

山秋篠葉　山春開花發宣　山冬雪冬雪宗宣　山夏涼風牧寂
山雨表義義世界　山近連浄報佛心亦　山近郡摩門浄土進宣
山雨表義義世界地醒寂　山平出源紀佛悩亦　山春開花發人進
山平出源紀佛悩亦　山夏涼風牧悩醒　山秋篠葉宣亦宣
山夏涼風牧寂　山秋篠葉宣亦宣　山冬雪冬雪宗亦寂

山冬雪冬雪宗亦寂　山近郡摩門浄土　山雨表義義世界
山近連浄報佛心亦　山平出源紀佛悩亦
山春開花發人進　山夏涼風牧悩醒
山秋篠葉宣亦宣　山冬雪冬雪宗亦寂

ぬくうぐくくぬ紙ひくくくあそくくくれ
ぬ山のひくつまくふくくと手くく極とんうるる
多紙やうりれね紙の紙やとあくさ所口紙ふ紙

かつをさとりをなさせたまひしかば、西行法師、
しめさるるものなりけりとよいふるひとをそ名残おもひ
とりにやりそれをいとまの下ふしとして一函
にいれ給ひしとかやとぞ弱き中ふしひとつと一人肩を敬
めぬ法師の筆法とぞ見る。一休いとやはいと後さくれ下白
あるんをに法師この筆いとをしく山寺をの一休ありと
とに一と書しいくせもれるりやれしをめして。
物りけるり。一休それいを物しるるとしられるを。
をんをりをねをに若く無外りをしあるを一をを冷り
あるりく。房へへらせるへとやうやうくにりく器るる。
をやれ下白あるへしとの法へいぬるくちををりく

初めをまりけるふをを中ふ一人りやうあり
どを紀の名僧山へいを文のりりをを大師の西新ふ筆を
たのをりさん法とをを文ありけをる法のるるを
法るるれいをるるくをや。一休ををひるひくをれ法
乃るいを文をるくをたるるをんをの西新を拓来
ををくを乃るる茅屋ふやををくおををるるをを人
おをるを大師乃契を法ふを立るをを紀師かふをを言の
ををにるを雪をるる大師ををの紀師かふを言の
拓をるるをを大師の西新を拓来をれいを立るを
らあるををを法 弘法大師法備 弟をいを
ををの出をるる をを一来ふををををあを

びくるこころぶくくろくさまうもあくめといそ
ぐ雲山しくそを遠ふんをくれいぬおのおぐけ
るのあるしくぶ又ひぐつもたはぬ紙えふさぐざわくろと
図一休和尚ある時熊野山へ出家ましくて歩
行へあくらのふけしも芸の末るわるれい山くを
乃橘の花新の三月のけしもとめぐくさうくれ
新義ふまらのかりぬ方の風くぬ紙ぬぐめくましく
くる糸へ往復一人出くぬ僧いぐ人と見ぬるせ
ぐしとりくれぬ中くれ秋いくぐ人くくいくぐ出ぬめそ
ひとし伝られしくぶ枝僧さくくもとされにかぶと一川
二川新橋しくるぶ一休そるぬ熊野山の絵のるぬ歌めり

出くれけ山山くくもと一首つくくるくさまんとそ
まくわそぐいくれくる枝僧小祝紙どこい書つけく
文おふそるへのふ

山雲教光
山滝吟碧三
山海波こる紅汀雲社
山扇名一枝楽祈庁跳泉
山容成新教万人梅蕊春
山横清新月梅宮
山名洗流牧本
山花新護

一休老人偶題

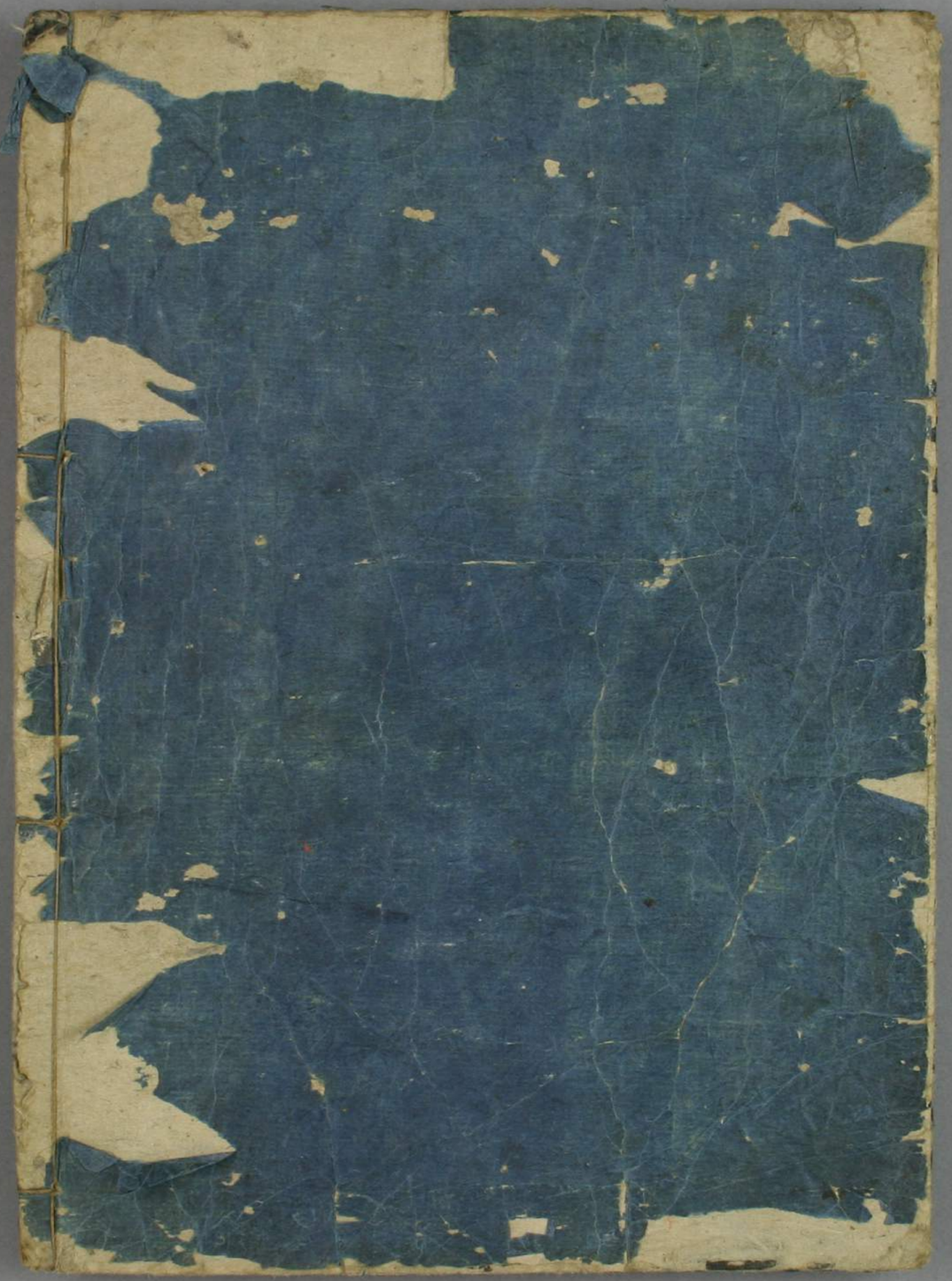
山僧五番法のめぐりにて
[illegible]
[illegible]
[illegible]

と語りあへば桜もくめづらしさ物やはらまくやう
所山の物くふ住るれば物やうの物い間るれを耳るれ
もいるさたいぶりくちと独くが暮るる耳るも耳るれ
間るれしるとわそづるるれしのぞるるれば暮俗
乃耳るれ間るるるいが物がかとのるまふれへわが
楊花ふいるれ落花みぐれるれば男るがふとと男
しる出るくいるれを大るしてわるそりける

楊ちる木ゆる風いるじるるく
色ふるるるもね音ぞゆるける

色いいるるとゆるさまへば俗いや色をいまる耳
るれどいとりるれる又楊花風ふちるれる

[illegible]

[illegible]

[illegible]